

スプレーギクの栽植様式と仕立て本数が切花品質に及ぼす影響

中 野 俊 成・高 橋 寿 一

(岩手県農業研究センター)

Effects of Planting Distance and Stem Number of Training on Spramum's Qualities

Toshinari NAKANO and Toshiichi TAKAHASHI

(Iwate Agricultural Research Center)

1 は じ め に

岩手県におけるスプレーギクは、4条植を基本としており、10a当たりの目標収量を4万本程度としている。しかしながら、愛知県等では5～6条植えによりこれ以上の収量を挙げている事例がある。そこで、6条植を基本とした適正な単位面積当たりの仕立て本数を知るため、栽植様式及び株当たり仕立て本数が切花品質に及ぼす影響について検討した。

2 調 査 方 法

試験は、1996年に岩手県北上市の岩手県園芸試験場本場（現岩手県農業研究センター本部）圃場と岩手県九戸村の現地農家圃場の2カ所で実施した。供試品種はすべて秋ギ

表 1 試験区の構成

区名	畦幅 (cm)	株間 (cm)	条間 (cm)	条数 (本)	栽植本数 (本/10a)	株仕立て本数 (本/株)	面積当たり仕立て本数 (本/10a)
A	180	12	15	6	27,778	2	55,556
B	"	15	"	"	22,222	"	44,444
C	"	"	"	"	"	3	66,667
D	"	18	"	"	18,519	"	55,556
E	"	15	20	4	14,815	"	44,444
F	"	12	25-30	"	18,519	2.5	46,298
G	"	"	"	"	"	3	55,556
H	"	15	15	6	22,222	2.7	59,999
I	"	"	"	"	"	3	66,667

注. 1) A-E区は旧岩手県園芸試験場本場, F-I区は現地農家で実施

2) 6条植はいずれも中央の条間のみ30cmとした。

3) 畦幅は通路50cmを含む。

4) F区の株仕立て本数は、条の外列3本・内列2本, H区は外列3本・中列2本・内列3本とした。

表 2 耕種概要

項目	旧岩手県園芸試験場	現地農家
本 圃	雨よけハウス	雨よけハウス
定植日	7月22日-30日	5月1日(7月採り作型) 6月8-9日(9月採り作型)
施 肥	N-10、P-10、K-10	N-11、P-14.8、K-11.6
電 照	定植～9月2日まで	摘心から1カ月間
シェード	無	電照終了から花蕾着色時まで
マルチ	無	有

注. 1) 施肥は単位kg/10a, いずれも成分量

2) 電照は午後10時から午前2時まで実施

3) シェードは午後6時から午前6時まで実施

ク型で、既存品種をヨーロッパ系品種・従来系品種・風車系品種に大別し、それぞれタイプ別品種を選定した。

岩手県農業研究センターではヨーロッパ系品種の「ローズクィーン」、「ディッパー」、「エバ」と従来系品種の「サマークィーン」、「スージー」を、現地農家ではヨー

表 3 切花品質

試験場所	品種	試験区	開花期 (月・日)	切花長 (cm)	茎径 (mm)	花蕾数 (個)	分枝数 (本)	調整重 (g)
旧岩手県園芸試験場本場	ローズクィーン	A	10・29	141.6	6.1	18.1	14.9	52.0
		B	10・29	144.3	6.4	18.9	16.4	52.6
		C	10・29	140.9	5.9	15.3	12.8	42.1
		D	10・29	141.8	6.5	17.0	14.9	52.7
		E	10・29	143.2	7.0	21.6	16.0	58.7
	ディッパー	A	10・29	147.3	6.8	15.0	13.1	56.1
		B	10・29	149.0	7.0	17.2	14.2	59.9
		C	10・29	144.3	6.1	13.5	10.9	40.4
		D	10・29	144.3	6.7	15.7	12.9	57.3
		E	10・29	148.9	7.2	17.2	14.5	63.5
	エバ	A	11・8	115.6	9.4	11.0	9.2	72.0
		B	11・8	117.9	10.1	11.1	9.2	75.5
		C	11・8	115.6	8.1	9.2	7.6	56.8
		D	11・8	115.4	9.1	10.2	8.3	64.9
		E	11・8	115.8	10.8	13.4	10.5	86.6
現地農家圃場	サマークィーン	A	10・21	104.7	6.8	11.8	9.2	42.0
		B	10・21	115.0	7.0	8.6	7.6	38.8
		C	10・21	113.8	6.5	8.0	6.8	34.0
		D	10・21	115.2	6.4	8.5	7.0	35.6
		E	10・21	113.4	6.6	10.4	8.7	42.6
	スージー	A	10・22	119.1	6.4	6.7	5.6	42.9
		B	10・22	129.6	6.8	6.9	5.3	43.6
		C	10・22	126.0	6.6	6.5	5.3	40.9
		D	10・22	124.2	5.9	6.3	5.2	36.3
		E	10・22	127.0	6.8	8.0	6.6	49.1
	ローズクィーン (7月採り作型)	F	7・23	121.1	5.5	20.8	16.0	66.0
		G	7・23	119.1	5.5	20.9	16.5	70.0
		H	7・24	116.3	5.2	36.9	18.8	66.0
		I	7・24	116.4	5.3	26.7	16.7	63.0
	サニーブーマ (7月採り作型)	G	7・27	100.5	5.1	26.1	14.3	57.0
		H	7・27	104.3	5.7	27.4	15.7	49.0
		I	7・27	103.7	5.2	28.0	15.0	52.0
	サニーブーマ (9月採り作型)	F	9・8	107.4	5.1	35.2	15.0	64.0
		G	9・8	108.7	5.1	31.5	15.0	57.0
		H	9・9	112.1	5.0	30.9	15.2	58.0
		I	9・9	110.8	5.0	32.7	15.1	59.0
	夢風車 (9月採り作型)	I	9・6	106.1	4.2	7.7	6.7	42.0

注. 1) 開花期: 旧岩手県園芸試験場本場; 盛期, 現地農家圃場; 始期

2) 花蕾数: 旧岩手県園芸試験場本場; 着色花蕾数, 現地農家圃場; 花蕾総数

3) 調整重: 旧岩手県園芸試験場本場; 切花長を90cmに調整後, 基部から30cmの葉及び分枝除去
現地農家圃場; 切花長を90cmに調整後, 基部から15cmの葉及び分枝を除去

表4 出荷率と有効採花本数(旧岩手県園芸試験場本場)

品種	出荷率(%)					有効採花本数(本/10a)				
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
ローズクィーン	94.4	86.1	91.7	94.4	79.2	52,445	38,266	61,134	52,445	35,200
ディッパ	91.7	88.9	91.4	91.7	91.7	50,945	39,511	60,934	50,945	40,755
エバ	100	100	94.4	94.4	95.8	55,556	44,444	62,934	52,445	42,577
サマークィーン	100	100	94.1	100	100	55,556	44,444	62,734	55,556	44,444
スージー	88.9	88.9	93.3	52.9	91.7	49,389	39,511	62,200	29,389	40,755

注. 1) 良花基準は花房形が乱れておらず、切花長90cm以上、花蕾数6個以上30個未満のものとした。

2) 有効採花本数: 面積当たり仕立て本数×出荷率

表5 出荷率と有効採花本数(現地農家圃場)

品種	作型	出荷率(%)				有効採花本数(本/10a)			
		F	G	H	I	F	G	H	I
ローズクィーン	7月採り	98	96	96	87	45,372	53,426	57,406	58,074
サニープーマ	"	—	93	96	87	—	55,556	57,776	57,778
"	9月採り	99	97	93	93	45,650	53,704	55,999	62,089
夢風車	"	—	—	—	62	—	—	—	41,112

注. 1) 良花基準は花房形が乱れておらず、切花長は90cm以上、花蕾数6個以上とした。

2) 有効採花本数: 面積当たり仕立て本数×出荷率

ロッパ系品種の「ローズクィーン」、「サニープーマ」と風車系品種の「夢風車」をそれぞれ用いた。また、供試条件については表1、耕種概要については表2にそれぞれ示した。

品質及び出荷本数の調査を開花始期又は開花盛期に実施した。

3 試験結果及び考察

(1) 旧岩手県園芸試験場圃場

開花期は、いずれの品種も栽植様式及び株当たり仕立て本数による差は認められなかった。

切花品質は、ヨーロッパ系品種では面積当たりの仕立て本数が多くなるほど、花蕾数、分枝数、調整重がやや減少する傾向にあった。一方、従来品種では栽植様式及び株当たり仕立て本数による差が判然としなかった(表3)。

しかしながら、いずれの品種も試験区に関わらず大部分が出荷規格の範囲内であった。有効採花本数は、いずれの品種も面積当たりの仕立て本数が最も多いC区が優り、61,000-63,000本であった(表4)。

(2) 現地農家圃場

開花期は、いずれの品種も栽植様式及び株当たり仕立て本数による差は認められなかった。

切花品質は、ヨーロッパ系品種ではいずれの栽植様式及

び株当たり仕立て本数でも良好であった(表3)。

出荷率も総じて高率であった。一方、風車系品種はI区でのみの試験結果であるが、総じて花蕾数が少なく、茎径・分枝数もヨーロッパ系品種と比較して劣った(表3)。出荷率も62%と低かった(表5)。

有効採花本数は、「ローズクィーン」7月採り作型及び「サニープーマ」9月採り作型では面積当たりの仕立て本数が最も多いI区が優り、それぞれ58,000本、62,000本であった。また、「サニープーマ」7月採り作型ではH区とI区が同等で58,000本であった(表5)。

4 ま と め

以上の結果、ヨーロッパ系品種・従来品種ともに、最も面積当たりの仕立て本数の多い試験区においても、出荷規格水準の切花品質を保持した。また同様に、有効採花本数も他の試験区より多かった。したがって、栽植様式は畦幅180cm、株間15cm、条間15cm(中央の条間のみ30cm)の6条植、株当たりの仕立て本数はすべて3本とするのが最も良いと考えられた。ただし、「夢風車」については切花品質の低下が認められたため、株当たりの仕立て本数を減らす等今後の検討を要する。

また近年、岩手県内での導入が進んでいる夏秋ギク型品種についても、適応性の検討が必要である。